

Saitama
University

Fund



埼玉大学基金

令和 6 年度

活動報告書

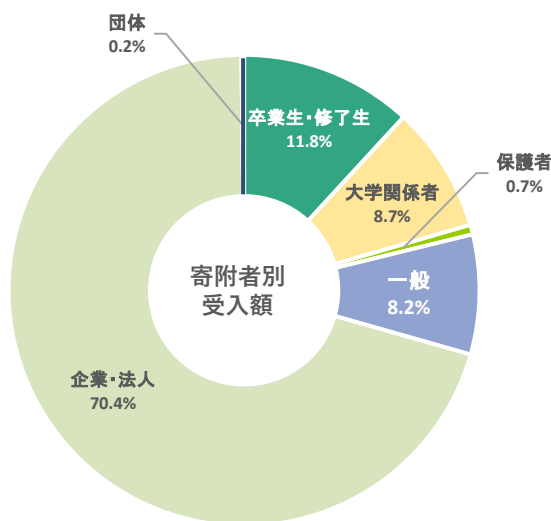


令和6年度受入の概要

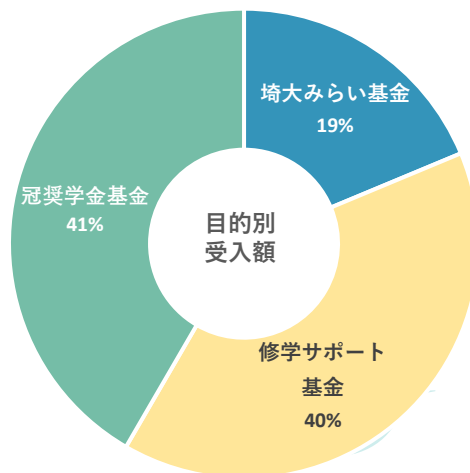
ご寄附受入額 〈令和6年4月1日～令和7年3月31日〉

埼玉大学基金にあたたかなご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄附は、目的の趣旨に則って有効に活用させていただいております。

寄附受入件数 **322**件 / 寄附受入総額 **39,642,458**円



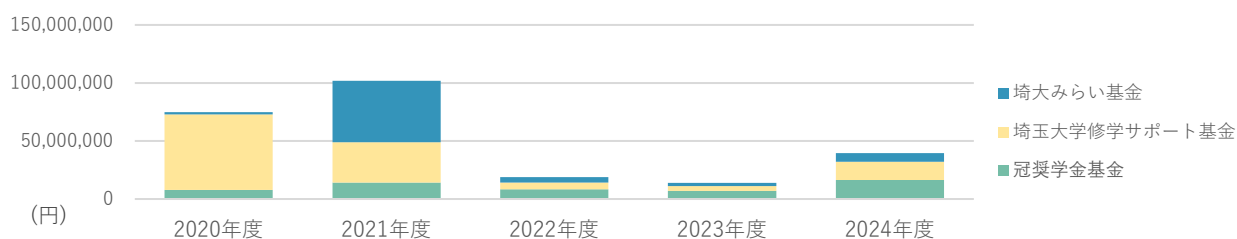
■ 卒業生・修了生	149件	4,674,390円
■ 大学関係者（退職者含む）	73件	3,439,634円
■ 保護者	10件	260,109円
■ 一般（匿名の方を含む）	57件	3,259,201円
■ 企業・法人	28件	27,916,407円
■ 団体	5件	92,717円



■ 埼玉大みらい基金	107件	7,419,958円
■ 修学サポート基金	208件	15,722,500円
■ 冠奨学金基金	7件	16,500,000円

寄附受入額の推移 〈過去5年間〉

寄附目的	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計(円)
埼玉大みらい基金	1,948,276	52,854,216	4,708,774	2,755,515	7,419,958	69,686,739
埼玉大学修学サポート基金	65,263,000	34,727,392	5,782,881	4,000,286	15,722,500	125,496,059
冠奨学金基金	7,700,000	14,300,000	8,400,000	7,040,000	16,500,000	53,940,000
合計	74,911,276	101,881,608	18,891,655	13,795,801	39,642,458	249,122,798



令和6年度の活動報告

支出合計 19,237,255円

〈令和6年4月1日～令和7年3月31日〉

皆さまから賜りましたご寄附は、教育・研究活動支援として各事業に活用させていただきました。ここでは活用事業をご紹介します。

埼玉みらい基金

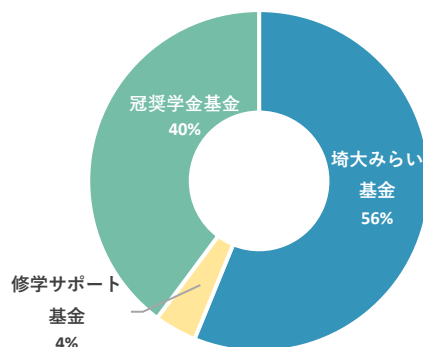
10,806,316円

修学サポート基金

770,939円

冠奨学金基金

7,660,000円

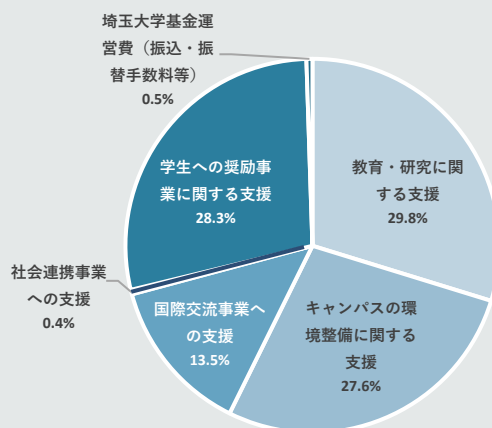


埼玉みらい基金

大学の機能強化及び学生への奨励事業として下記の5つの事業に活用させていただいております。

- 教育・研究に関する支援
- キャンパスの環境整備に関する支援
- 国際交流事業への支援
- 社会連携事業への支援
- 学生への奨励事業に関する支援

※ご寄附の際にご支援いただく項目をお選びいただけます。



■ 教育・研究に関する支援



● 研究成果の発表や展示を行うためのポスター用パネルの購入

学内外の交流会や研究発表会、展示会など、さまざまな場面で活用されています。パネルの導入により、学生や教員の研究内容を視覚的にわかりやすく伝えることができようになり、参加者同士の理解や意見交換がより活発になっています。今後もこれらの設備を有効に活用し、研究・教育活動のさらなる発展に努めてまいります。



● 大学図書館の図書を購入

学生からの購入希望や教員推薦本等、合計36冊を購入させていただきました。（購入リストは埼玉大学基金のHP内にてご報告させていただいております）
※この取組みは「リサイクル募金」を活用したものです。

埼大みらい基金



■ キャンパスの環境整備に関する支援

キャンパス内に防犯カメラを設置しました。

学生・教職員および来訪者の安全確保と安心して学び・働ける環境づくりを目的として、キャンパス内に防犯カメラを新たに設置する支援を行いました。通行量の多い出入口付近や夜間の人通りが少ない場所を中心に設置場所を選定し、プライバシーへの配慮を行いつつ、防犯・抑止効果の高い配置を心がけました。これにより、不審者の侵入や盗難等の犯罪抑止、緊急時の対応迅速化が期待されます。



■ 国際交流事業への支援

留学する学生の支援を行いました。

学生の国際的な挑戦を後押しするため、留学支援を行いました。具体的には、海外留学を希望する学生に対し、必要な語学資格試験の受験費用の一部を補助するとともに、実際に留学を実現し、単位を取得した学生には奨励金を支給しています。これにより、経済的な不安を軽減し、意欲ある学生が積極的に海外に飛び立つ環境づくりを進めています。



■ 社会連携事業への支援

埼大学生広報サポーター活動の支援を行いました。

令和6年度は、さいたま市、さいたま市議会、そごう大宮店、未来屋書店と野店など多くの自治体、企業等との連携事業を開催しました。学生の活躍を支援すると共に、地域の活性化に貢献できる取り組みとなりました。

埼大学生広報サポーターとは

本学は、広報活動と地域社会との連携を一層推進するため、2022年10月に新たな取り組みとして、「埼大学生広報サポーター」を発足させました。当サポーターは、学生ボランティアで組織され、学生ならではの視点から大学の広報活動を行うとともに、自治体や企業、地域社会と連携し、教職員と協働でプロジェクトの企画立案や運営を行っています。



■ 学生への奨励事業に関する支援

● 梶田隆章賞を学生2人に授与しました。

梶田隆章賞とは

1981年の埼玉大学理学部卒業生で、2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生（東京大学宇宙線研究所・卓越教授）の栄誉を称えて設けられたものです。賞の創設には、梶田先生の寄附金が充てられています。賞の創設以来、次世代の若手研究者の育成を推進することを目的として、学業において優秀な成績を収め、高い研究者への志を有する大学院進学予定の卒業生を表彰しています。



● 100円朝食・朝活プロジェクトへの支援を行いました。

「朝食を摂らないことで生活リズムが乱れてしまう」「不規則な食生活が続き、体調を崩してしまう」といった学生の声を受け、手軽な価格で栄養バランスの取れた朝食を提供するこの取り組みは、多くの学生に利用されています。学生の健康維持や生活習慣の改善、学修意欲の向上につながりました。



修学サポート基金

このたびの能登半島地震により被災した学生を支援するため、「能登半島地震緊急支援奨学金」を設け、6名の学生に給付を行いました。本基金は経済的な理由により生活や学業に大きな影響を受けた学生が安心して学業を継続できるよう支援することを目的としています。多くの方々からの温かいご支援により、被災学生に寄り添った支援を届けることができました。

冠奨学金基金

寄附者の方のご意向に沿う形で学生をご支援いただく制度です。埼玉大学基金の前身である埼玉大学発展基金で設立されたものを含め、令和6年度末現在、下記のとおり14件のご支援をいただいております。

- 大内新興化学工業奨学金 【設立順】
- 白楽ロックビル奨学金
- MARELLI奨学金
- エネグローバル奨学金
- 大栄不動産奨学金
- デジタルベリー奨学金
- 武島(志方)明子奨学金
- 高協基礎工事奨学金
- 祐昭奨学金
- 大志奨学金
- Max会奨学金
- ポーライト奨学金
- 三明インターナショナル奨学金 (三明屋賞)
- SSRC奨学金 (令和7年度給付開始)



エネグローバル奨学金 (研究賞授与式の様子)



支援を受けた学生からたくさんの感謝の声が届いております。
その一部をご紹介します。



昨年度から2年間奨学金を頂きまして心から感謝しております。

私は母を4年前に亡くし、病弱な父の収入のみでは学生生活を送ることが難しくアルバイトをしています。本学科は他学科と比較して1年次から忙しいなかでも、2年次までに学部卒業までの学費を稼ぎましたが、現在は生活費を稼ぐことでも手一杯です。本年度から予定より希望していた研究室に配属され、生化学の研究・勉学に勤しんでいます。日々苦難の連続で本業が多忙を極め、頂いている奨学金無しには生活が困難です。本当にいつもありがとうございます。感謝の思いが尽きません。来年度より私は博士前期課程に進学します。より一層学問に誠実に、真剣に研究に取り組む所存です。そのような未来を描けたのも、奨学金を頂けたからだと痛感しています。私がすべきことはその感謝の思いを胸に強く抱き、有意義な研究生活を送ることだと考えています。重ね重ねにはなりますが、奨学金を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

工学部 4年



このたびは奨学金を給付いただき、心より感謝申し上げます。

現在、私は細菌とウイルスに関する研究に取り組んでおり、特にウイルス感染防御の分子メカニズムについて研究を進めています。しかし、家庭の事情により両親からの仕送りを受けることができず、学費や生活費の負担が大きな課題となっていました。経済的な不安を抱えながらの研究活動は難しく、思うように専念できないこともありました。奨学金をいただいたおかげで、金銭的な負担を軽減でき、安心して研究に打ち込むことができました。その結果、研究の成果が認められ、論文に名前を掲載していただく機会を得ることができました。自分の研究が学術的に貢献できたことは、大きな自信につながりました。このような貴重な経験ができたのは、ひとえに奨学金のご支援のおかげです。今後もより一層研究に励み、より良い成果を生み出せるよう努力を続けてまいります。学びの機会を与えてくださったことに深く感謝するとともに、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

大学院理工学研究科 1年



学生からの感謝のこぼれ



この度は奨学生として採用していただいたこと、厚く御礼申し上げます。昨年に引き続き、採用していただきまして、幸甚に存じます。

私は理学部で数学を専攻しております。数学には様々な分野があり、その分野ごとに専門書があります。さらに、専門書は海外で発売しているものも多く、本を購入するための金銭的負担が厳しいものとなっています。さらに定年が近い両親に学費を支払ってもらっている状態であり、両親の老後のことも考えれば、金銭的な心配で学問に中々打ちこみ辛かった時期もありました。しかしながら、奨学金をいただけたことにより金銭的な心配はかなり取り除かれ、しっかりと数学に打ち込むことができるようになったと強く感じております。また、アルバイトに割かなければいけない時間も減り、勉強時間も増やすことができるようになりました。来年からは卒業研究に打ち込むこととなりますが、今学んでいることを社会に還元できる人材になることを目指して、日々努力を積み重ねて参ります。繰り返しになりますが、この度は誠にありがとうございます。

理学部 3年



このたびは、奨学金を給付いただき、誠にありがとうございます。経済的なご支援をいただき、学業だけでなく学校現場でのボランティア活動にも、これまで以上に意欲的に取り組むことができいております。

私は現在、養護教諭養成課程に所属しており、将来は子どもたち一人ひとりの心と体の健康を支えられる養護教諭になることを目指しています。そのために、大学での学びを大切にしながら、現場で求められる知識や実践力を着実に身につけるべく、日々努力を重ねております。このような貴重なご支援をいただいたことに、改めて心より感謝申し上げます。温かいお気持ちにしっかりと応えられるよう、今後も誠実に学びを深め、精進してまいります。

教育学部 4年

昨年に引き続き本年度も奨学金を給付していただいたことに対し、心より感謝申し上げます。研究面においては、11月に行われる県知事への発表会に向けて、埼玉見沼地域の文化財活用についてチーム丸となって取り組んでおります。難しい課題ではありますが、現地調査でわかったことや事例研究をうまく活用し、悔いの残らないような発表ができるように残された時間を有効に使っていきます。学業に加えて、夏休み以降はいくつかインターンシップに参加し、業界研究を進めています。将来的にはまちづくりに関わりたいと思っているので、貴社のリーディング体験に参加させていただいたほか、インフラ系の職業体験では大規模再開発のプランを考えるなど、様々な経験ができました。関東圏外の企業に行くことも多く、今年の夏は非常に Ausflugがかさんだため、奨学金をいただくことができ非常に助かりました。これからも奨学生としての責任を果たし、優秀な成績を収められるよう尽力していきます。重ねて御礼申し上げます。

経済学部 3年



この度は奨学金を授与いただき、誠に光栄に存じます。寄附者様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

かねてより大学院での研究活動への進学を志しておりましたが、この度の温かいご支援は、私の夢の実現に向けた大きな後押しとなります。この度の温かいご支援を無駄にすることないよう、勉学に励み、将来社会に貢献できる人材となれるよう、日々精進してまいります。大学院では、これまでに学んだ知識をさらに深め、学部時代より行っている研究活動に引き続き取り組んでいく予定です。また、研究活動に励む傍ら、サークル活動やインターンシップにも積極的に参加し、多様な価値観に触れ、視野を広げることに努めてまいりたいと考えております。これらの経験を通して、社会で活躍するための実践的な能力を磨き、人間性を豊かに育んでいきたいと存じます。今後とも、ご期待に応えられるよう、努力してまいります。改めまして、奨学金を授与いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

大学院理工学研究科 1年



学生からの感謝のこぼれ



この度は奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。この奨学金は、来年の秋から始まる留学の準備金として活用させていただきます。

現在、Global Youthの頼れる先輩や教授などに相談しながら有名観光地だけではない地方の魅力を伝える観光学または地域創生について学べる留学先を選定している最中で、一年後に迫る異国での生活に期待と不安を抱きながら生活しております。ご支援のおかげで海外留学が実現でき、夢に一步近づくことを実感しています。留学計画を進める中で埼玉大学での学びを最大限に生かし、一つでも多くのことを吸収できるよう、これからも勉学に励みます。支援していただいたからには期待に応え、埼玉大学生の名に恥じないよう、より一層努力してまいります。最後になりますが、ご支援してくださった全ての方々に重ねて深くお礼申し上げます。

教養学部 1年



この度は奨学金を寄附していただき誠にありがとうございます。

学生生活にかかる費用はとても自分一人では賄いきれるものではなく、母親を含め多くの方々の支えによって大学に通うことができています。そして、学びたいことを学び、経験することができています。しかし、そうした中でもアルバイトによる給与が必要不可欠である状況は変わらず、勉学に割く時間を多少削る必要があります。そのような状況下で今回貴社から寄附金をいただけましたことは非常に幸運なことだと実感しております。奨学生としての自覚と責任を持つと共に、奨学金を活用させていただくことでより長い時間勉学に励み、将来に必要なことと挑戦していきたくと考えております。まだ何年か先の話にはなりますが、このご恩を決して忘れることなく、大学を卒業し就職して別の形で社会に貢献できるように、誠心誠意努力を積み上げていきたいです。また、将来学びたくてもそのための十分な環境を得ることができず苦しんでいる人を見かけたときに積極的に手を差し伸べていきたいと思っております。ご支援いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

工学部 1年

この度は、奨学生に採用していただき、支援いただきましたこと、誠に感謝申し上げます。支援いただきました奨学金は、学費や、教材費として、使わせていただきます。

私は、高校の音楽科教員を志望しております。知識豊富で子ども想いな教員になれるよう、限られた大学院での2年間の毎日を大切に勉学に励んで参ります。特に、私の研究分野である日本の伝統的な音楽、その中でも演歌についての知見を深め、授業作りに活かしていきたいと思っております。これまで、経済的理由で、読めずいた本や教材が多くありました。今回いただいた奨学金を活用し、多くの書籍に触れられること、大変嬉しく思っております。そして、教員になった際には、子どもたちに日本の伝統的な音楽の魅力を伝え、我が国の文化を尊重できる子どもの育成に努めて参ります。そのために、この2年間で、たくさんの本や教材に触れ、先人から得た知識を自分のものとするよう、日々努力して参ります。この度は誠にありがとうございました。

大学院教育学研究科 1年



この度は奨学金を賜り、誠にありがとうございました。大学院を無事に修了し、4月からは社会人として新たな一步を踏み出すにあたり、本奨学金のご支援をいただけたことに、心より感謝申し上げます。

学生生活の最後にこのような賞をいただけたことは、これまでの学びや努力が認められた証として、大きな自信と誇りにつながりました。大学院では専門分野の学びを深め、研究を通じて課題解決力や論理的思考力を養うとともに、数多くの貴重な経験を得ることができ、充実した学生生活を送ることができました。今後は、学部および大学院で培った専門的な知識や経験を社会の中で活かし、少しでも多く社会に貢献できるように、誠心誠意努めてまいります。ご支援くださった寄附者の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

大学院理工学研究科 2年